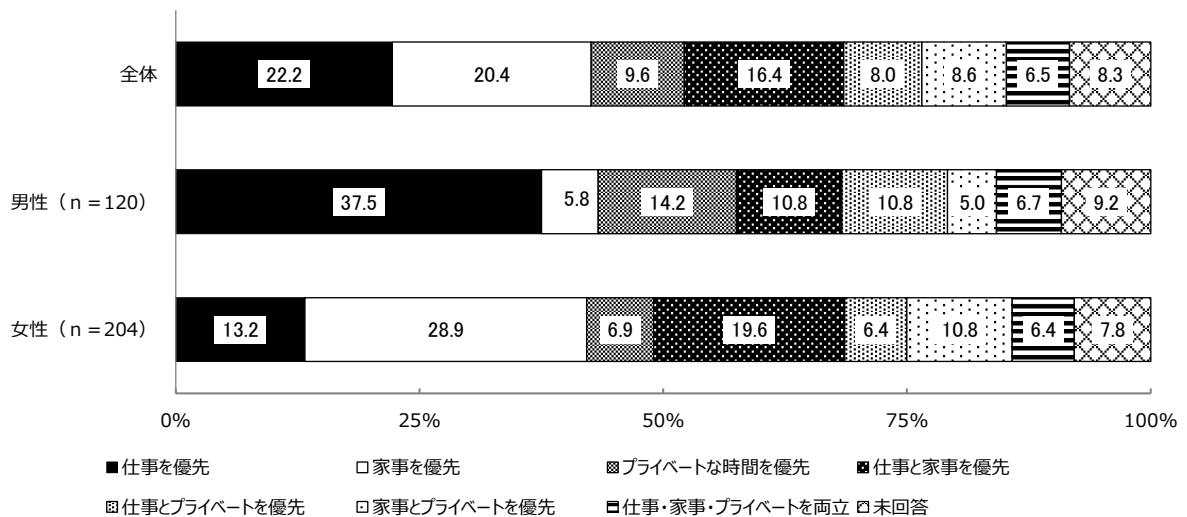


## 8 ワーク・ライフ・バランスについて

**【問36】** 生活の中での、仕事・家事（育児など）・プライベートな時間（趣味など）の優先度についてお聞きします。「a. 現状」の優先度と、「b. 理想」としての優先度について、あなたの現状やお考えに最も近い番号を、それぞれ1つだけ枠の中に記入してください。

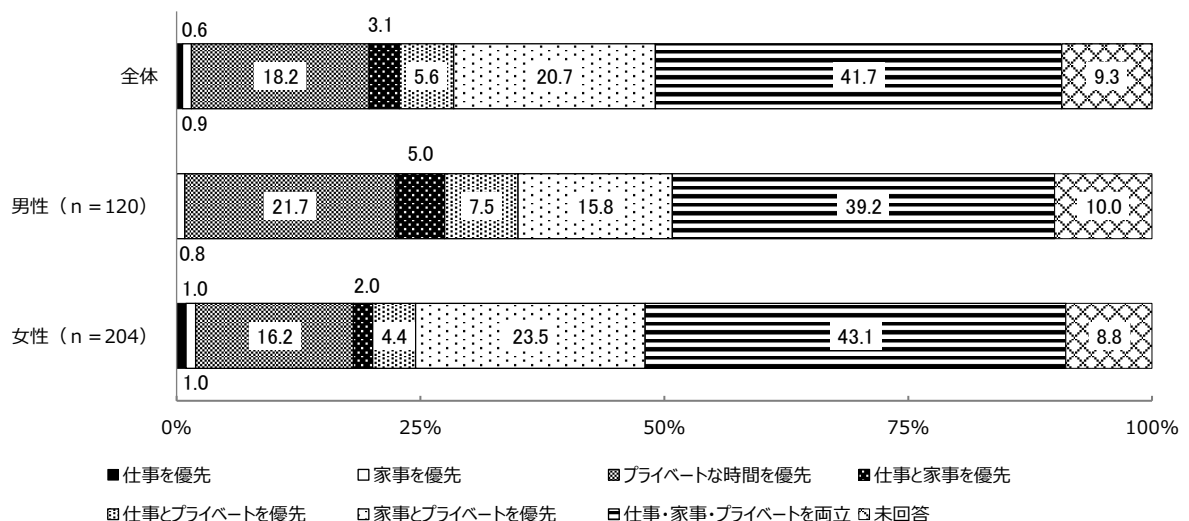
※専業主婦（夫）など、仕事に就いていない方は、家事とプライベートの関係についてお答えください。

### a. 現状の優先度



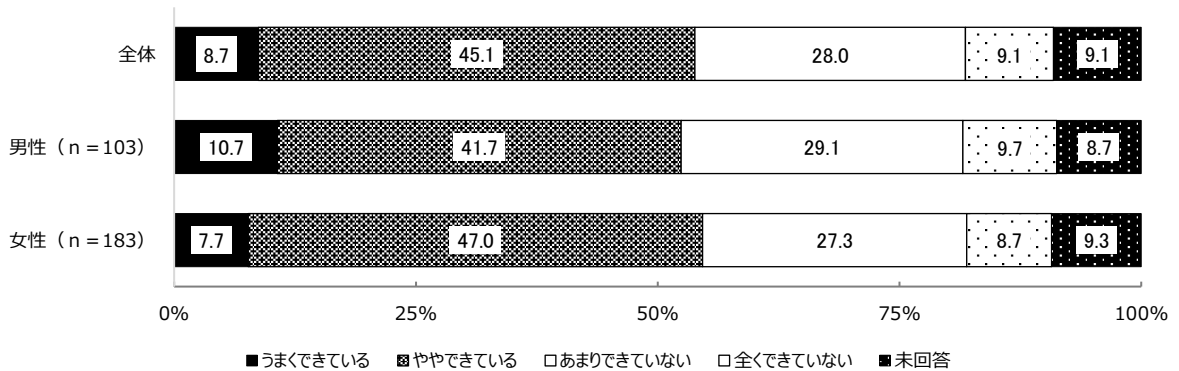
生活の中で、仕事・家事・プライベートな時間などの優先度の現状について聞いたところ、男性は「仕事を優先」（37.5%）、女性は「家事を優先」（28.9%）が高くなっている。

### b. 理想の優先度



仕事・家事・プライベートな時間などの優先度の理想について聞いたところ、男女ともに「仕事・家事・プライベートを両立」が最も高かった。次いで、男性は「プライベートな時間を優先」（21.7%）、女性は「家事とプライベートを優先」（23.5%）となっている。

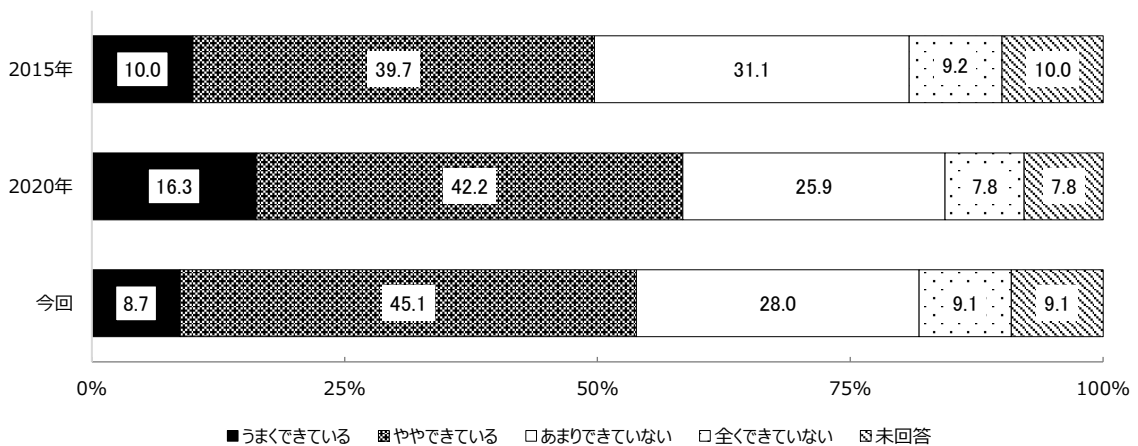
**【問37】** あなたはワーク・ライフ・バランスを実現できていますか？



WLBの実現度について聞いたところ、全体の53.8%が「うまくできている」「ややできている」と回答した。

性別で見ると、「うまくできている」「ややできている」は女性（54.7%）が男性（52.4%）よりも、2.3ポイント高くなっている。

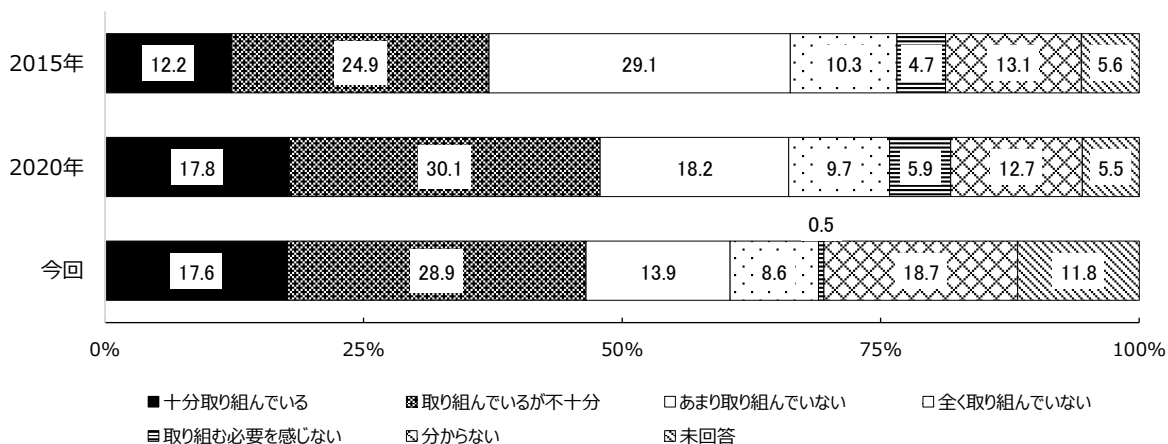
▶過去の調査との比較



これまでの調査と比較したところ、「うまくできている」「ややできている」は2020年（58.5%）より4.7ポイント低くなり、53.8%となっている。「あまりできていない」「全くできていない」は2020年（33.7%）より3.4ポイント高くなり、37.1%となっている。

**【問38】** 職業に就いている方にお聞きします。あなたの職場でのワーク・ライフ・バランスの取組について、あなたはどのように認識していますか。現状及び今後の必要性について、次の中から、最も近い番号を1つだけ枠の中に記入してください。

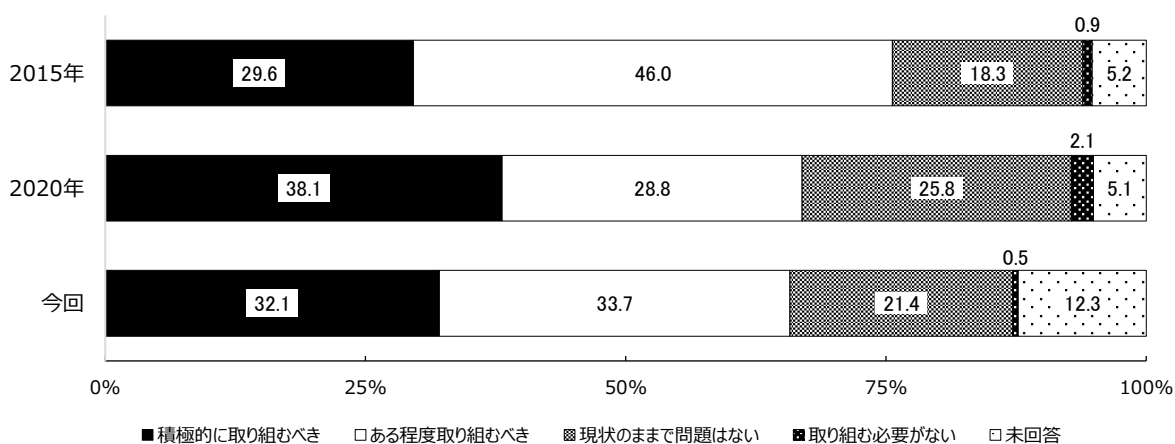
**a. 現状**



職場におけるWLBの取組の現状についてどのように認識しているか聞いたところ、「十分取り組んでいる」が17.6%、「取り組んでいるが不十分」「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」が51.4%となっている。

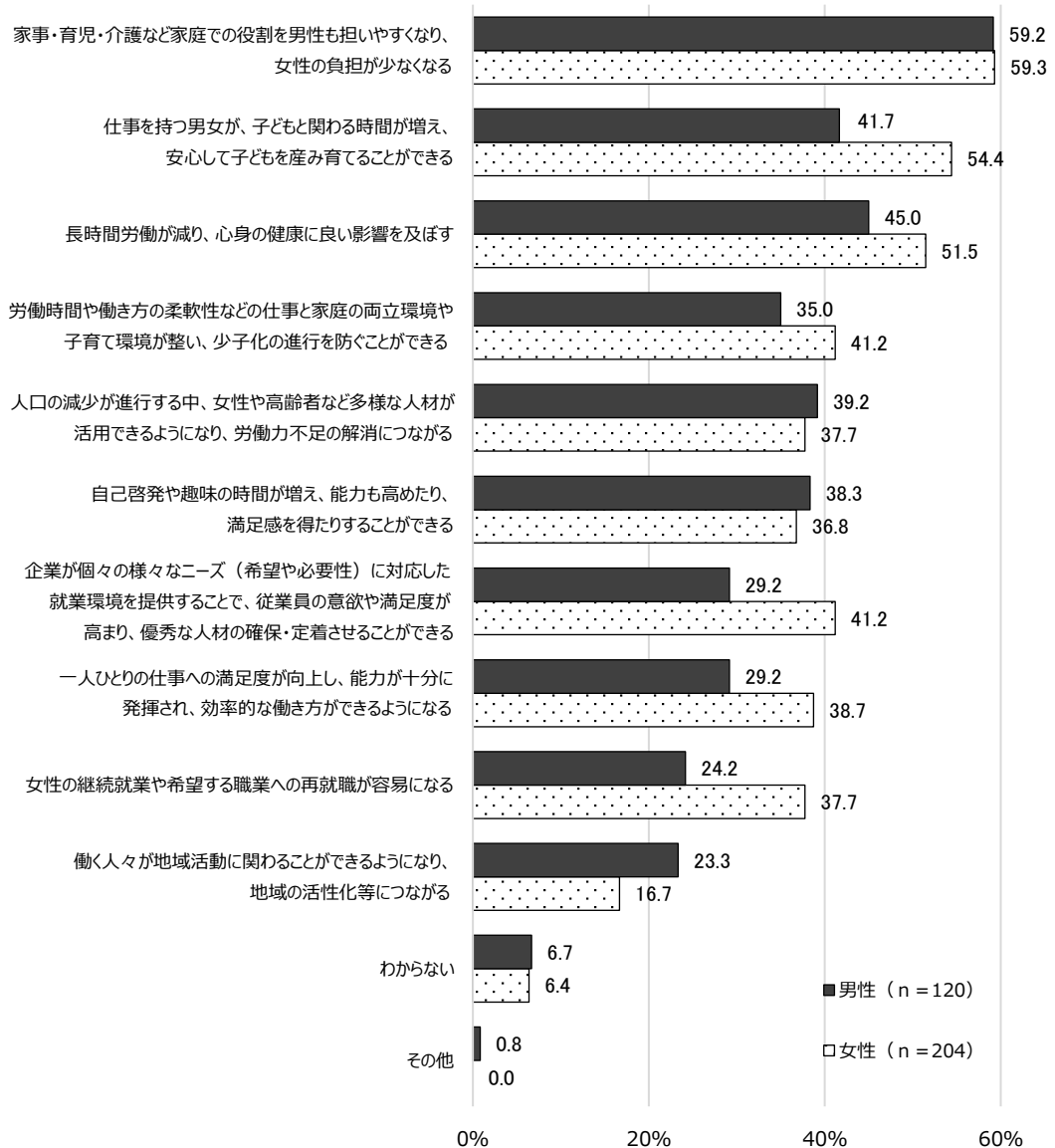
過去の回答と比較したところ、「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」は経年減少している。

**b. 今後の必要性**



今後の必要性について聞いたところ、「積極的に取り組むべき」「ある程度取り組むべき」は65.8%となっており、前回より1.1ポイント低くなっている。

**【問39】** あなたがワーク・ライフ・バランスを推進していくことで、プラス効果であると思うものについてお聞きます。次の中から、当てはまる番号をいくつでも枠の中に記入してください。（複数回答）



WLBを推進していくことで、プラス効果であると思うものについて聞いたところ、「家事・育児・介護など家庭での役割を男性も担いやすくなり、女性の負担が少なくなる」、「仕事を持つ男女が子どもと関わる時間が増え、安心して子どもを産み育てることができる」、「長時間労働が減り、心身の健康に良い影響を及ぼす」が全体の上位になっている。

性別で見ると、男性は「家事・育児・介護など家庭での役割を男性も担いやすくなり、女性の負担が少なくなる」（59.2%）、「長時間労働が減り、心身に良い影響を及ぼす」（45.0%）の順で高く、女性は「家事・育児・介護など家庭での役割を男性も担いやすくなり、女性の負担が少なくなる」（59.3%）、「仕事を持つ男女が子どもと関わる時間が増え、安心して子どもを産み育てることができる」（54.4%）の順で高くなっている。

## ワーク・ライフ・バランス（WLB）

WLBとは「生活の充実によって、仕事の効率・パフォーマンスが向上し、短時間で仕事の成果を出せる・プライベートに時間を使えるという好循環のこと」をいいます。

仕事は、暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらすものですが、同時に、家事・育児・近隣との付き合いなどの生活も暮らしに欠かすことのできないものであり、その充実があつてこそ、人生の生きがい、喜びは倍増します。

しかしながら、現実の社会には、安定した仕事に就けず、経済的に自立することができない、仕事に追われ、心身の疲労から健康を害しかねない仕事と子育て・老親の介護との両立に悩むなど、仕事と生活の間で問題を抱える人が多くみられます。

これらが、働く人々の将来への不安や豊かさが実感できない大きな要因となっており、社会の活力の低下や少子化・人口減少という現象まで繋がっているといえます。それらを解決する取組が、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現です。

「仕事と生活の調和（ワークライフバランス）憲章」（平成19年内閣府）では、仕事と生活が調和した社会とは、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」としています。

### ワーク・ライフ・バランスが実現した社会

#### 就労による経済的自立が可能な社会

- 経済的自立を必要とする者、とりわけ若者がいきいきと働くことができ、かつ、経済的に自立可能な働き方ができ、結婚や子育てに関する希望の実現などに向けて、暮らしの経済的基盤ができる。

#### 健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会

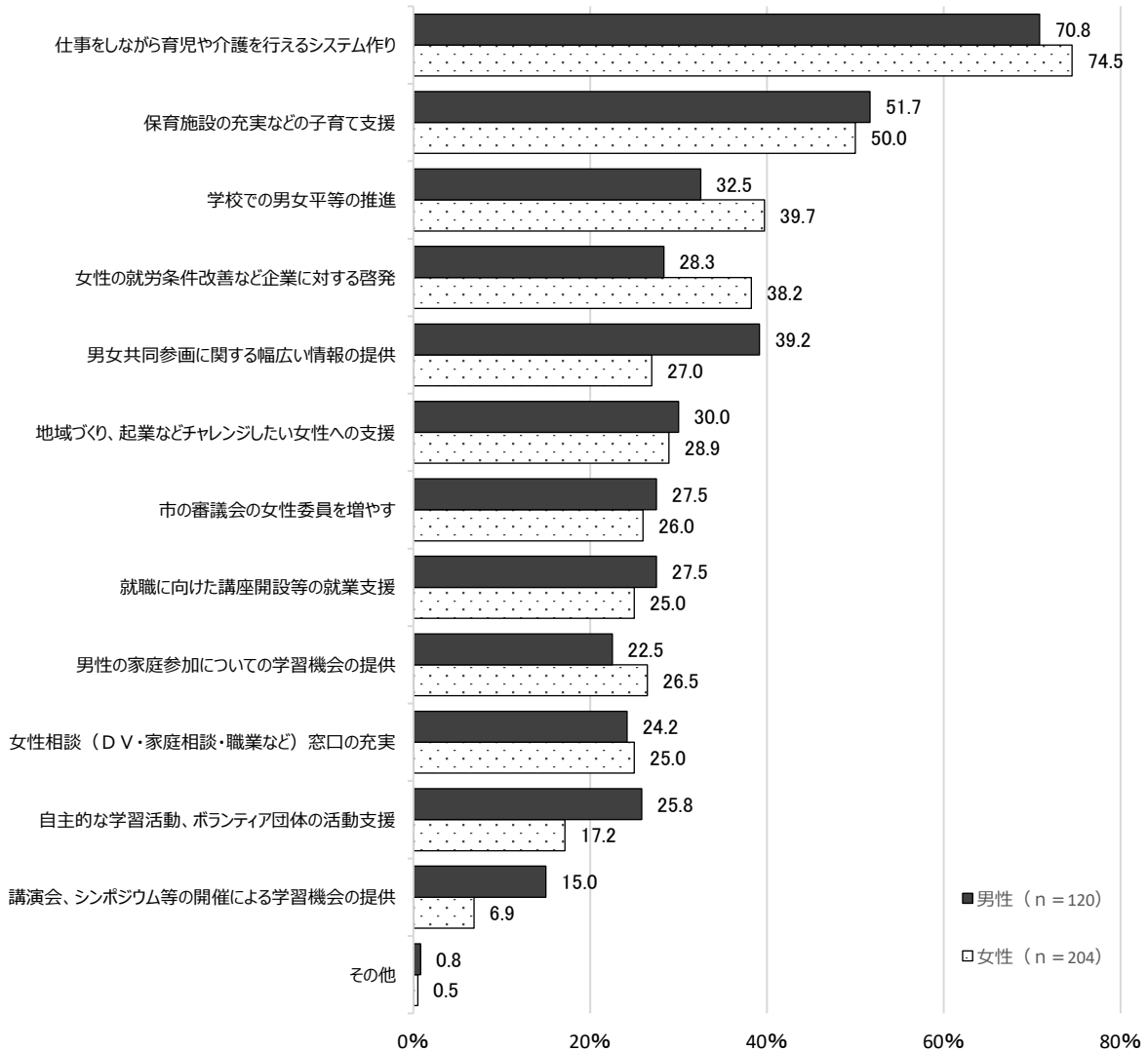
- 働く人々の健康が保持され、家族・友人などとの充実した時間、自己啓発や地域活動への参加のための時間などを持てる豊かな生活ができる。

#### 多様な働き方、生き方が選択できる社会

- 性や年齢などにかかわらず、誰もが自らの意欲と能力を持って様々な働き方や生き方に挑戦できる機会が提供されており、子育てや親の介護が必要な時期など個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択でき、しかも公正な処遇が確保されている。

## 9 新居浜市が取り組むべきことについて

**【問40】** あなたは、新居浜市が男女共同参画社会の実現を目指して、どのような施策を進めるべきだと思いますか。当てはまる番号をいくつでも枠の中に記入してください。（複数回答）



男女共同参画社会の実現を目指して、どのような施策を進めるべきだと思うか聞いたところ、男女ともに「仕事をしながら育児や介護を行えるシステム作り」、「保育施設の充実などの子育て支援」が多くなっている。

上位2項目を除くと、男性は、「男女共同参画に関する幅広い情報の提供」（39.2%）、「学校での男女平等の推進」（32.5%）の順で多くなっている。

女性は、「学校での男女平等の推進」（39.7%）「女性の就労条件改善など企業に対する啓発」（38.2%）の順となっている。